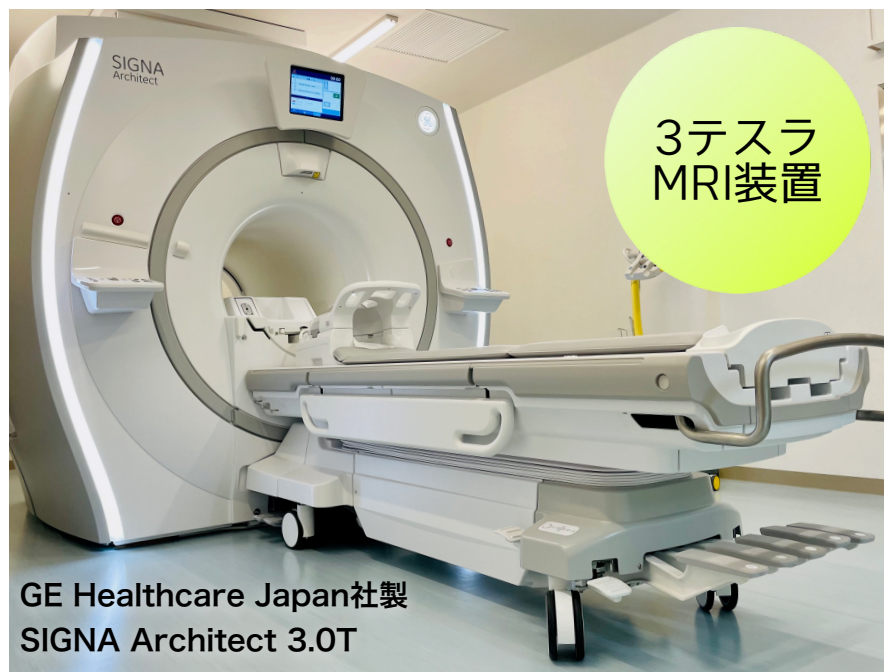
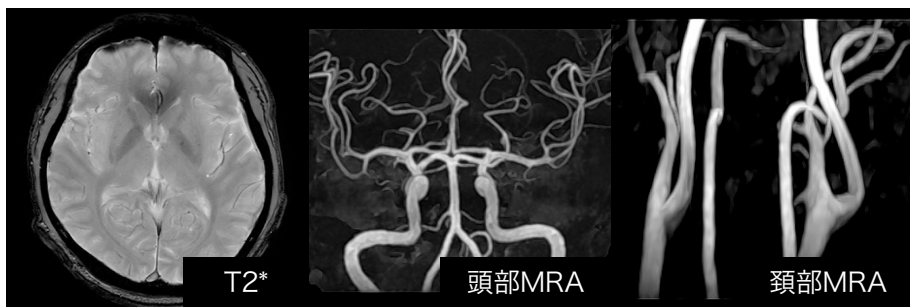
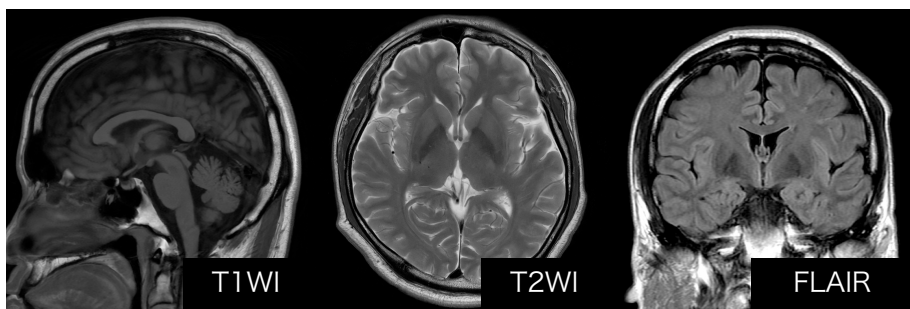


脳ドックを受けましょう

近年、日本人の3大疾病として、がん、脳卒中、心疾患があげられます。

その中でも突然死を呈することがある脳卒中は、**高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、喫煙、肥満**などが原因とされています。

発症すれば重症化する事が多い脳卒中ですが、これらの疾患の多くは早期発見、早期治療により病気の発症を未然に防ぐことができます。予防のためにも、一度脳ドックを受けられることをお勧めいたします。



[Web予約はこちら](#)



上記QRコードを
スマートフォンのカメラで
読み取り、リンクにアクセ
スして下さい。

- ① **簡易コース**：頭部MRI/MRA・頸部MRA・血圧測定・身長・体重・腹囲・診察
- ② **標準コース**：簡易コース+血液検査・検尿・眼底カメラ
- ③ **認知症診断コース**：標準コース+VSRAD・MMSE・甲状腺機能検査

費用 25,200円

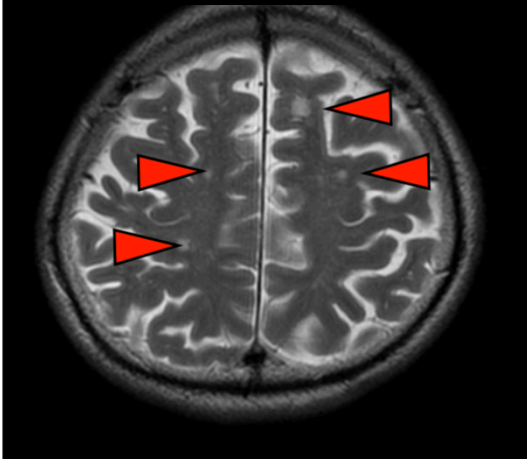
費用 33,600円

費用 38,700円

※1 VSRADは海馬の萎縮度をMRI画像から解析する検査です。 ※2 MMSEは簡易的知能検査です。 ※3 認知症診断コースは50歳以上の方に限ります。

脳ドックで発見される主な疾患

ラクナ梗塞



末梢血管が閉塞しておこる小さな脳梗塞です。加齢と共に発症してきますが、発症部位によっては小さな梗塞であっても麻痺などの異常をきたす場合があります。

対処法

血液をさらさらにする薬を内服し、食生活の改善などで血中コレステロールや中性脂肪のコントロールを行います。

頸動脈狭窄

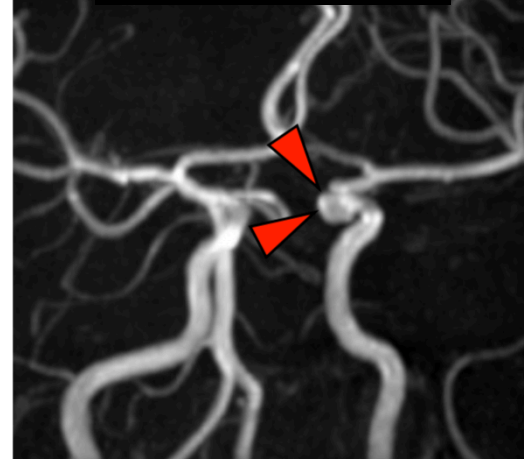


頸動脈は最終的に脳へと血流を供給します。頸動脈の狭窄により血流が阻害されると、広範囲にわたり脳が虚血に陥るため、重篤な脳梗塞を引き起こす危険があります。

対処法

狭窄が軽度の場合は薬剤投与にて経過観察、高度狭窄の場合はステント留置や内膜剥離などを行い、血行動態を改善します。

脳動脈瘤



突然発症するくも膜下出血の原因の大半が脳動脈瘤の破綻です。発症した5人に1人はその場で死亡すると言われており、命を取りとめたとしても、重篤な後遺症が残る可能性があります。

対処法

場所やサイズにもよりますが、動脈瘤への血流を遮断するため、クリッピング術やコイルリング、ステント留置術などを行います。

中大脳動脈閉塞



動脈硬化により、脳動脈の閉塞が見られます。完全に血流が途絶えてしまうと広範囲にわたって脳が虚血に陥るため、頸動脈狭窄同様に重篤な脳梗塞を引き起こす可能性があります。

対処法

他の血管から血流の補助があれば経過観察ですが、血流動態に左右差がある場合は血流改善のためにバイパス術が行われます。



脳出血・脳梗塞の原因は、脳ドックで発見されることが多々あります。早期発見・早期治療にて、重篤な障害を未然に防ぐことができます。気になる方は、一度脳ドックを受けてみてください。詳しくは放射線科にお問い合わせ下さい。